

# 3

## 山陽小野田市の都市の特性と問題・課題

### (1) 山陽小野田市の特性

#### 1 人々にとって住み良い環境を備えた都市

本市は、年間を通じて気候が温暖であり、さらに、古代より山陽地方の交通の要衝の地として多くの人々が住み着いていました。また、市街地を取り囲むなだらかな丘陵地、干拓地や盆地に広がる田園地帯、さらに、海や川などの身近な水辺空間にも恵まれ、人々が快適に暮らす環境という面では非常に恵まれた都市です。こうした温暖な気候、豊かな自然環境、そして各地域に残る歴史や文化は、本市に暮らす住民の誇りであり、後世にも引き継いでいくことが必要です。

近年、山陽自動車道の開通やJR山陽新幹線駅の開業、さらに、幹線道路やバイパス等の整備が進められた結果、交通の要衝としての利便性は向上しましたが、その一方で、自動車に依存した生活がますます定着するようになっていきます。

#### 市民の声

「市民アンケート」では、本市の「住み心地」について、全体の72.2%が「住みよい」と「だいたい住みよい」と回答しており、本市の住み良さが評価された結果となっています。

#### 2 製造業への依存度が高い都市

本市は、かつて石炭・セメント産業によって大きく発展し、現在も石油・化学工業や機械工業などの製造業が市内の産業全体を牽引しています。しかし、炭坑閉山や事業所の規模縮小の際に人口や財政が大きく影響を受けたように、製造業が落ち込んだ場合には市民の生活にも大きな影響を及ぼす可能性があります。

一方、農林水産業については本市も厳しい環境に置かれており、商業・サービス業についても、市外で買い物をする住民も多く、十分に満足されている状況とはいえません。

また、高校や大学を卒業した若者が高等教育や就業の場を求めて市外へと転出する傾向が続いています。このため、市内に大規模事業所や山口東京理科大学が立地している特性を活かして、大学と地域産業との連携、教員・学生と地域社会との交流を活発にすることが必要です。



臨海部工業地帯の街並み

### 3 市としての中心が不明瞭な都市

本市は、旧小野田市・旧山陽町の合併によって誕生した市ですが、それまでも何度かの合併を経て成立した歴史を持っており、各地域に市街地が分散した都市となっています。

現在では、JR小野田駅～市民館周辺とJR厚狭駅周辺を市の「都市核」に位置づけ、都市機能の集積を進めていますが、その他の地区の都市整備や地域活性化も必要であり、単純な一極集中は望ましくありません。

市民から見ても、市の中心というものの捉え方が地域によって異なっており、都市の顔や都市の核となる中心市街地が不明瞭な状態になっているといえます。

#### 市民の声

「市民アンケート」では、本市の「中心市街地」と考える場所として、「おのだサンパーク・公園通り周辺」が最も多くあげられており、次いで「小野田駅周辺」があげられています。

ただし、山陽地区の回答者の中には、「厚狭駅周辺」や「埴生支所周辺」をあげる人も多くいる、という結果となっています。

## (2) 山陽小野田市が直面する問題・課題

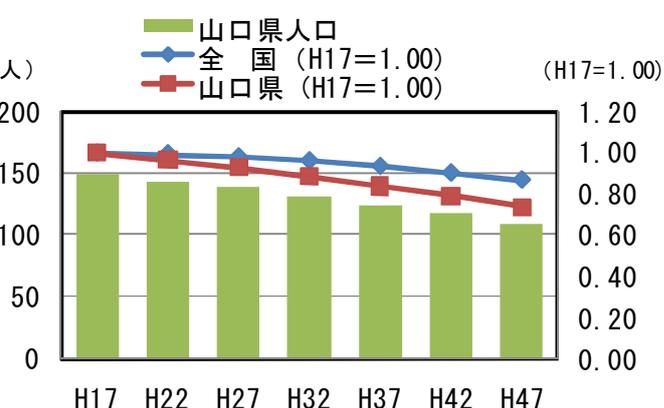
### 1) 我が国全体を取り巻く時代の潮流

#### 1 本格的な人口減少・少子高齢社会の到来

我が国では今後さらに人口減少・少子高齢化が進むことが予想されていますが、大都市への人口流出が続く地方都市では、さらに早いスピードで人口減少・少子高齢化が進むといわれています。このような人口減少・少子高齢社会において健全な都市経営を持続するには、都市基盤施設の整備・維持管理に係る費用や労力を抑えることが不可欠となってきます。また、自家用車を使わない高齢者が増加することから、鉄道やバス等の公共交通を確保するとともに、歩いて生活できる範囲内に都市機能を集約化することが必要となってきます。このため、今後は、人口増加を前提とした市街地の拡大や、自動車利用を前提とした郊外部の開発を抑制し、コンパクトな市街地内の都市基盤施設に対して重点投資することが必要となります。

一方、市街地が縮小していく中で、郊外部の住宅団地や中山間地の集落におけるコミュニティや生活水準の維持がこれからの大きな課題となります。農地や山林についても、従事者の高齢化や後継者不足による荒廃が見られるなど、今後、農地・山林をどのようにして維持管理していくかが課題となっています。

図 国と山口県の将来人口



(資料：日本の都道府県別将来推計人口(平成19年5月推計)  
：国立社会保障・人口問題研究所)

#### 2 景観や環境に対する意識の向上

我が国では、これまで経済発展や利便性向上につながる開発を優先する中で、自然や古い街並みが失われてきました。また、効率性や機能性を重視し、地域の伝統や文化に根ざさないものも受け入れた結果、多くの都市で個性のない街並みが生まれました。

こうした中、地球温暖化をはじめとする地球環境問題の深刻化により、循環型社会に対応した都市構造への転換に向けて、エネルギー消費及び排出ガスの抑制、水循環・資源再利用への配慮、身近な緑地の保全・創出などを推進することが必要とされています。また、急速な成長・拡大の時代が終わりを迎え、安定した成熟社会へと本格的に移行しつつある中、人々の価値観も「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へ、「集団への帰属」から「個人の尊重」へと変化しつつあります。特に、どの都市も同じように画一的なまちづくりが進められてきたことへの反省から、地域の歴史や文化を尊重し、生活者の視点に立ったきめ細かなまちづくりを進めていくことが求められるようになっていきます。

景観や身近な自然環境の保全を巡る紛争が近年各地で発生しているように、良好な景観や豊かな緑は、都市の個性や魅力を構成する重要な要素となっており、美しい街並みを持つ都市が多くの人々を呼び寄せる時代になりつつあるといえます。

### 3 拠点となる中心市街地の衰退

各家庭・個人が自家用車を利用するような時代を迎えて以来、安くてゆとりある住環境を求め人々は郊外へと移転し、その結果、中心市街地の人口減少や商店街の衰退が全国的な問題となりました。近年、大都市では都心への回帰も進みつつありますが、地方都市では、中心市街地の空洞化と郊外部への流出に歯止めがかからない状態が続いています。

中心市街地の空洞化は、徒歩での生活を前提としていた商店街や生活者に影響を与えるだけでなく、これまで整備してきた都市基盤が無駄になる、公共交通のサービス水準がさらに低下する、防犯上の危険性が増大するなど、多くの問題を引き起こす可能性を含んでいます。また、中心市街地の多くは、古くからの歴史資源や伝統文化を有しており、継承者の不足等から地域固有の景観や魅力が喪失してしまう恐れも指摘されています。

今後、中心市街地へ人々を呼び込むには、郊外部の開発を抑制することも重要ですが、生活や就業などの面で利便性が高く、快適で魅力ある中心市街地を創出することが重要な課題といえます。

### 4 いつどこでも起こりえる災害の危険性

我が国における近年の災害実態を見ると、ほぼ毎年大規模な地震が各地で相次いで発生するなど、もはや大規模な地震はいつどこで発生してもおかしくない状況であることが指摘されています。また、本市にも甚大な被害をもたらした平成 11 年 9 月の台風 18 号のように、台風の来襲や集中豪雨による災害も発生しており、日常的な防災の取り組みが必要かつ重要であることがあらためて認識されるようになりました。

こうした自然災害による被害を軽減するために、国や自治体でも体制の整備や対策の実施が進められていますが、密集市街地の改善、建物の耐震化・不燃化、避難地・避難路の整備など、多くの課題が依然として山積しています。さらに、近年では、一人暮らしの高齢者など災害時に支援が必要な住民の数も増加しており、地域コミュニティによる防災力の向上が重要となっています。

#### 市民の声

「市民アンケート」では、台風・地震等の災害対策に対する満足度が低くなっており、特に、厚陽地区や埴生地区のような海岸部に市街地が形成されている地区では満足度が低い、という結果となっています。

#### 【用語解説】

※都市基盤施設：道路・街路、鉄道、河川、上下水道、エネルギー供給施設、通信施設などの生活・産業基盤や学校、病院、公園などの公共施設。

※コミュニティ：人々が助け合いの意識をもって共同生活を営む一定の地域、及びその人々の集団・地域社会。

## 5 地方自治体と住民が担う役割と責任の増大

我が国は、明治以降、急速な社会資本整備、戦後復興、そして経済成長を遂げてきましたが、その一方で大都市への一極集中が進み、過密な大都市と地方の過疎という不均衡な国土構造が生まれました。こうした背景から、現在、大都市圏と地方圏の格差解消、地方自治体の中央依存型体質からの脱却を目指して地方分権が進められていますが、地方分権の進展は、ローカルルールの導入に代表されるように、各自治体の自主性・自立性を拡大させる一方で、地域の努力や創意工夫によって行財政改革に取り組むことが不可欠であり、これまで以上に、住民や企業等の意向を踏まえながら、地域の特性に応じたまちづくりを進めていくことが重要になっています。

一方、多くの自治体が財政難に悩み、職員数の縮減、公共事業の見直しを迫られる中、行政が全ての領域に渡って高いサービス水準を維持するのは困難になっています。特に、地域の生活に密着した防災、防犯、福祉、そしてまちづくりに関しては、住民の役割と責任のもとで自主的な取り組みを進めていくことが不可欠となっています。近年、ワークショップや各種委員会をはじめ、住民参画機会の増大や参加意識の向上が進んでいますが、今後は、行政から住民に向かっての情報発信や参加機会の提供にとどまることなく、同じ自治体に暮らす住民として一体となった取り組みを進めていくことが必要といえます。

### Topics

「ローカルルール」とは、ある地域や団体の中で通用するルール（規則）のことをいいます。

まちづくりに関しては、都市によって事情や特性が異なるため、全国一律のルールでは対応できない状況が見受けられます。このため、地域独自の土地利用や景観形成、まちづくりの考え方、望ましい基準等を明確にするとともに、独自のまちづくりを進めるためのルールを定める動きが広がっています。

## 2) 山陽小野田市の都市計画上の問題・課題

### 1 分散する市街地間の「連携」と市街地内の「集約化」の必要性

本市では、各地域に市街地・集落地が分散しており、主要な市街地は、JR小野田駅周辺、公園通り周辺、JR厚狭駅周辺、埴生漁港周辺などを中心に形成されています。各地域は河川や丘陵地によって隔たれており、また、市街地の間に広がる丘陵地や農地が健全に維持・保全されてきたこともあり、各市街地がそれぞれコンパクトにまとまった都市を形成しています。また、小野田地区は、なだらかな丘陵地で隔たれているだけの宇部市方面と密接な関係を持っており、埴生周辺も下関市方面と密接な関係を持っているなど、隣接する他都市と強い連携を取って本市は成立しています。さらに、既存の市街地内には多くの低未利用地が残されたまま、市街地の縁辺部や幹線道路沿道の区域で市街地の拡散が見られるなど、低密度な市街地が拡散しつつある状況も一部に見られます。こうした現象は、各地域の活力や個性の喪失につながるだけでなく、新たな基盤整備を必要とすることになるため、市街地拡散の抑制が重要な課題となっています。

今後、各地域の個性を活かしつつ、市町合併による効果を最大限に発揮させていくには、各市街地において土地利用の集約化・高密度化を図るとともに、地域間の連携強化を進めていくことが重要となります。特に、まちの中心というものが不明瞭な本市では、都市機能の一極集中は困難であり、理解が得られないことから、地域特性や都市機能の性質・役割に応じて、適切に機能を分散させる必要があります。また、幹線道路をはじめとする交通機能の充実によって、人々の通勤、買い物、観光等の行動範囲は今後さらに広域化することが予想されますが、本市がただの通過点となったり、他都市への流出だけが一方的に増加することのないよう、広域からの流入を受け入れる形で広域間連携を強化する必要があります。

### 2 身近な生活基盤施設の整備改善の必要性

本市では、広域的・骨格的な交通基盤施設や、大規模な公園の整備は進んでいますが、身近な生活道路や公園については依然整備の遅れている地域もあります。日常的に利用する歩道や公園、そして下水道の整備に関する要望も多く、身近な地域における生活基盤施設の整備・改善が求められています。

身近な生活基盤施設については、他の地域との整備水準の格差が市民の不満・不公平感を生む一つの原因ともなっていますが、財政上一度に整備を進めることは不可能であり、優先的・重点的に整備を進めるべき区域から着手するしかないという現状があります。また、公園に関しては、市民1人当たりの公園面積が既に40㎡以上となっている中、既存の公園の利用状況や維持管理費用等も考慮しながら、新たな公園の必要性や整備の方向性を検討していく必要があります。

しかし、身近な地域における安心・安全、快適性は、現在の居住者の満足度向上につながるだけでなく、地域外からの転入者増大にも大きく貢献する要因となります。このため、従来の整備手法や維持管理の方法にこだわることなく、地域の意向・要望等も踏まえながら、柔軟な視点で整備・改善を進めていくことが必要となります。

### 3 活力・にぎわいを育む土地利用、施設整備の必要性

人口の流出、特に若い世代の流出は、市内の就業の場の不足が主な原因となっており、今後、本市で生まれ育った子供たちが市内で暮らし続けるためにも、市内の産業育成・振興による就業の場の確保は重要な課題となっています。

農業に関しては、後継者育成や優良農地の保全に努める一方で、生産者が快適に生活できる環境整備や、都市に暮らす住民が農地を維持・活用する方策を導入していく必要があります。そして、工業に関しては、既存の工場等の操業環境維持に努めるほか、分譲の完了していない工業団地への企業誘致と地元雇用確保を積極的に進める必要があります。また、商業に関しては、市全体の商業活力が低迷している中、まちなかの商店街と郊外大型店舗の両者が共存して市外の商業に対抗できるよう、それぞれの特徴や長所を生かせるような土地利用、施設整備を展開する必要があります。特に、多くの市民が本市の商業地に「にぎわい」が欠ける点を不満に感じていることから、今後は、娯楽性の高い施設の立地を促すよう土地利用の規制・誘導に工夫を講じるとともに、公園や観光・スポーツ施設等と一体的に回遊性の高い空間づくりを進める必要があります。

【山陽小野田市の都市の特性と問題・課題のまとめ】

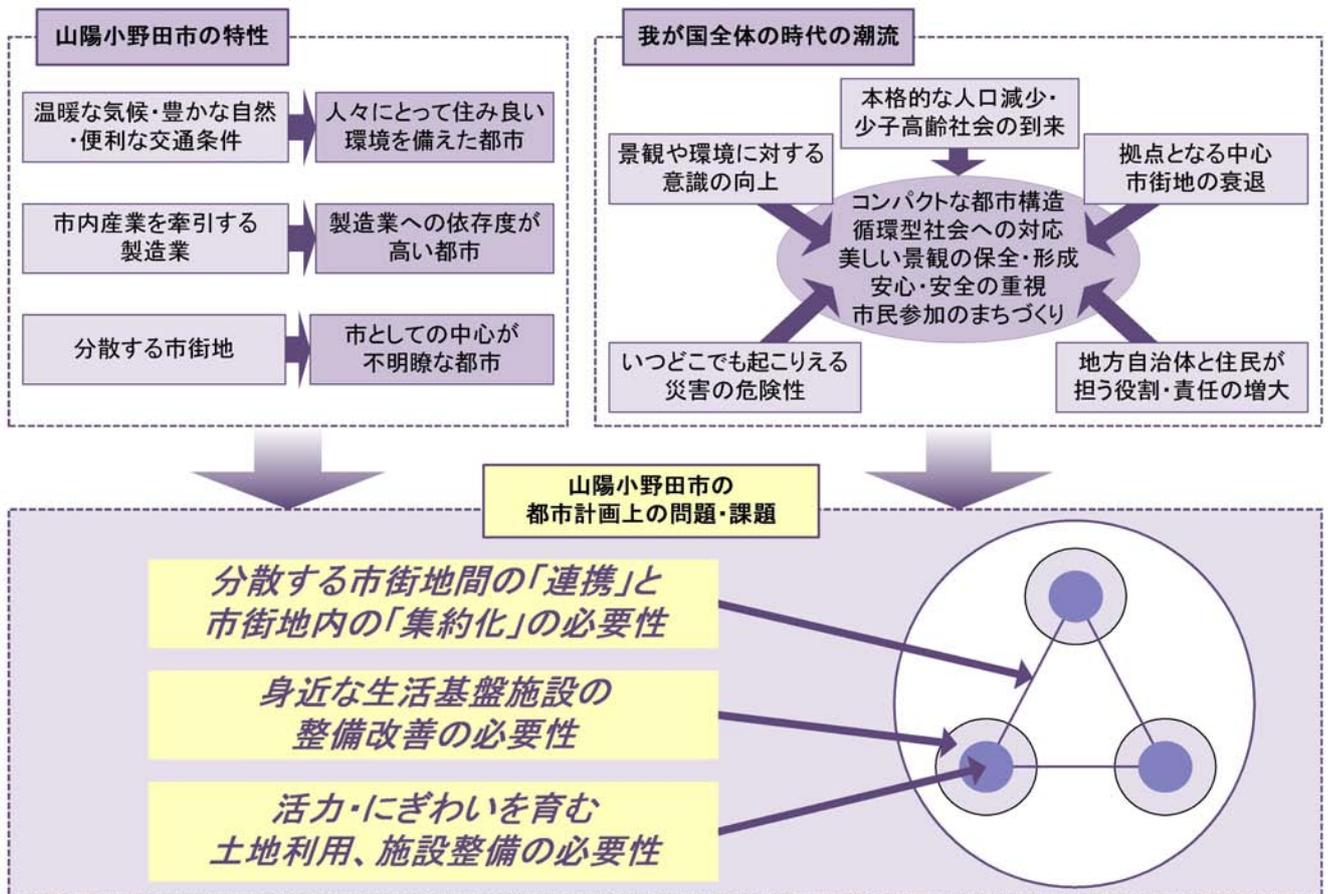
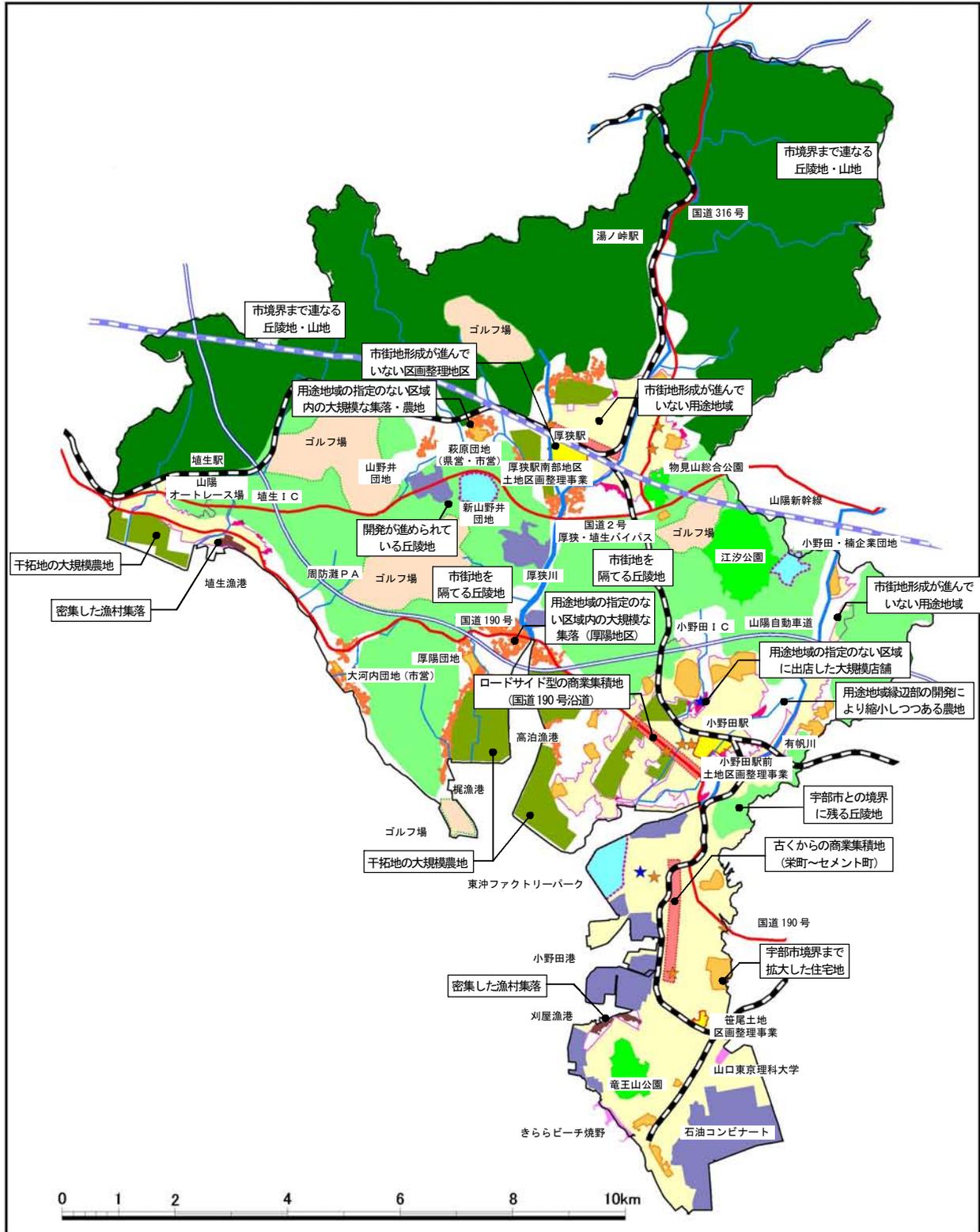


図 山陽小野田市の現況・課題図



0 1 2 4 6 8 10km

【 凡 例 】

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #f08080; border: 1px solid black;"></span> 商業集積地      | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #90ee90; border: 1px solid black;"></span> 大規模な農地      | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 1px solid black; background-color: #fff;"></span> 用途地域                 |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #6666ff; border: 1px solid black;"></span> 工業集積地      | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #90ee90; border: 1px solid black;"></span> 市街地を隔てる丘陵地  | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 1px dashed black; background-color: #fff;"></span> 鉄道(新幹線)             |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 2px dashed blue; background-color: #fff;"></span> 工業集積地(分譲中)    | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #008000; border: 1px solid black;"></span> 山地・丘陵地      | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 2px solid black; background-color: #fff;"></span> 鉄道(JR)               |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #ffa500; border: 1px solid black;"></span> 住居系開発団地    | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #00ff00; border: 1px solid black;"></span> 大規模公園(総合公園) | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 2px solid blue; background-color: #fff;"></span> 高速道路                  |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #ffa500; border: 1px solid black;"></span> 用途無指定大規模集落 | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #ffa500; border: 1px solid black;"></span> ゴルフ場        | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 2px solid red; background-color: #fff;"></span> 国道                     |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #800000; border: 1px solid black;"></span> 密集集落(漁村集落) | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #ffa500; border: 1px solid black;"></span> その他         | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 1px solid black; background-color: #fff;"></span> 大型商業施設               |
| <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color: #ff00ff; border: 1px solid black;"></span> 用途地域縁辺部開発  |  | <span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; border: 1px solid black; background-color: #fff;"></span> 1万㎡以上 1000㎡以上 (店舗面積) |